

2020.4月

# 銀の汗 Again

A面

## がんばれUN！ファンです銀の汗:(株)JCサプライ様



JCサプライ社屋



1Fは副資材の小売可能

神奈川県戸塚区に居を構えて36年  
神奈川の雄  
化研グループの防水商社  
「株式会社ジェイシーサプライ」様は  
この度、オリジナルのUNマシンキャンペーンを  
企画頂き、UN拡販に取り組んで  
頂く事になりました。(3月～5月)

各営業マンからは常に毎月と言っているほど  
UNマシンご利用申込書を頂いています(謝)



「がんばれオペレーター銀の汗、時々わかんないけどサイコー」と  
村上さん・三宅さん・鈴木社長・古内さん  
阿部さん・伊藤さん・北澤さん・若林さん  
\*残念(営業:野島・新井・由井・櫻澤さん;事務:秋津さん外出中)

この度、御礼も兼ね訪問させていただきました所、いきなり  
「巨人の星ネタ わかんない～キャーうふ」の黄色い歓声を頂き  
思わず「(父)とおちゃん、俺やるよ」と空を見上げました。

4月以降の現場がなかなか見えない中  
また昨今の新型コロナ状況を踏まえ  
「積極的に手を打つ」との強い気持ちに  
他社ウレタン1液品対抗にと  
お客様にとって究極の1液となる  
「UNマシン」を拡販の武器に、積極提案強化の  
施策を打ち出して頂きました。



UNへの、そこまでの黄色い声援と  
熱き思いを頂き、涙が止まりません・・



「な・なんとしてもキャンペーンの成功を・・・」  
花粉症のオペレーター4名も、目頭を押さえました。

【声】

村上部長 「UNマシンOPは任せて安心ですし、お客様の評判も良いのでこの機会に  
全営業マンが申込書出せるように取り組みます」

古内リーダー 「さっそく提案始めます、急な要請でも対応の程宜しくお願いします」

三宅さん 「OPの方が親切なので、キャンペーン頑張ります」

阿部さん 「キャ～っベイスターズファンです」

伊藤さん 「銀の汗ってステキ～」

北澤さん 「マンガ喫茶で巨人の星勉強しま～す◆」

若林リーダー 「次はセーラームーン如何でしょうか？ 申込出さないとお仕置きよ～」



JCサプライオリジナルUNキャンペーンチラシ  
(鈴木社長)

次はゲゲゲの鬼太郎如何でしょうか？

キャンペーンの詳細はJCサプライ営業担当者様までお問合せ下さい。

JCサプライ連絡先電話番号:045-864-1306

## 新型コロナ現場対策



マスク着用



カラーコーンで広い作業スペース確保

新型コロナに負けません  
OPは食事・睡眠を十分とり、免疫力UPに努め  
現場においては  
マスク着用・こまめな手洗い  
集合住宅等の現場においては何時もよりも  
大きめの作業場所を確保し2m以上  
(カラーコーン設置)  
近隣住民等との安全確保に努めます。

2020.4月

# 銀の汗 Again

B面

## 材料の無駄がありません



字も書けますオペレーター

UNマシンはサラセーヌ殆どの汎用材の使用が可能です。  
現場で材料が少し足りなくなった場合は、汎用缶を切り材料を継ぎ足します。反対に材料があまった場合、マシン手動切替で使用済の空缶に、材料をお戻しする事が出来ます。  
空缶にパイオランテープを貼り付け、  
日付・材料名・(主剤・硬化剤の有無)を書いて  
材料置き場にお戻し致します。

例) 3/3 EZ 主剤 など

## 大船郵便局UN(ビフォー⇒アフター)



【ビフォー】 「右:コロナも逃げる、江縫OP」



【アフター】

物件名: 大船郵便局  
施工業者: (株)エスピープランニング様  
取扱店: (株)JCサプライ様

1階屋根 1,300㎡ (UN2回)  
2階屋根 1,000㎡ (UN2回)

鎌倉市にある大船郵便局、計2,300㎡  
ドラム36ドラム缶 6,480ヶ。  
サラセーヌK使用。

1階部分の施工時には、市場で新型コロナウイルスの影響はまだ少ない状況でしたが  
2階部分の施工時には、時差出勤など国内での感染対策強化の時期となりました。

先行き不安の中、現場は待ってくれません  
短時間でやり遂げるためにも  
UNマシンの出番となります。

施工後  
「やっぱり早くて助かりました」と  
免疫力UPの言葉を頂き、晴天の中  
素早く片付け、新型コロナに負けない  
UNマシンとして今後も進んでまいります。



UNマシン.COMサイトが起ちあがりまして  
ブログ銀の汗にUNの活動状況一部掲載しています

[www.un-machine.com](http://www.un-machine.com)

yahoo検索ワード第1位(ウレタン・省カ化など)

銀の汗バックナンバーも掲載

UNマシンにて検索

### 【sweat of silver】

2011年3月11日東日本大震災後の福島第一原発の現場対応に当たったプラントエンジニアたち作業員の戦いを描いた映画「Fukushima50」、原作は「死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発」作家:門田隆将氏  
今後50年・100年先の学校の教科書に必ず2011年3月11日東日本大震災と福島原発事故が太字で明記される  
その事実の中、現場で本当にどんなことが起こったのか、そしてどう対処したのか後世の為、記さなければならぬと  
1年半以上、故吉田所長を説得し、その後全作業員を取材し完成させた本を原作に3/6映画が封切りされました。  
9年前、名もない庶民が、自らの命を顧みず危険なベント作業へ敢然と立ち向かいました。

ベントが失敗したら東日本は壊滅します。

「吉田所長となら一緒に死ぬ」と、有事には命を張る教育を受けてはいたが、吉田さんのような上司から命令を受けるかどうかで決断に大きな違いが出る事を感じましたと、作業員を通じた取材の中、門田氏が述べています  
そして、福島県の方々々が日本を救ったと・

震災時、2011年物流部で、配送1便化・メーカー欠品・ガソリン不足・計画停電等、全センター長と緊急対応しました。

何時か、この時の事は何らかの形で残さないといけないと感じていました。

そして2012年小冊子「進め物流部パート2」に記させて頂きました。(UNマシン.comサイト:ニュースレターの一番下在中)

あの時、共に闘ったセンター長の半分は今、居ませんが、経験は今も現場で生きています。